
夢幻

千春

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢幻

【Nコード】

N6010C

【作者名】

千春

【あらすじ】

西暦2115年。通称「ブロック」と呼ばれる巨大兵器をめぐり、世界は戦争の渦にあった。そんな世界に何故かタイムスリップしてしまった少女「麻生詩音」と軍人として戦う「垂水茜」。2人の出会いで世界はどう動くのか・・・

第一章 1・運命

ここに記すのは、すべて真実。すべて過去。すべて夢。
でも・・・私にとって、とても大切な思い出・・・

『ゴン!』といった、爽快な音で垂水 茜は目覚めた。

「なに・・・?」

現在時刻 午前4時。

まだ朝日も昇っていない、こんな朝早くに叩き起こされ茜は恨めしそくに音の原因を探ろうと辺りを見渡した。

「あれ・・・?」

しかし、予想に反して不審なものは部屋から見当たらない。
どういうことだ、と茜は不信感を一層募らせ、ベットから降りようと足を床に付けたその時だった。

『グニャッ・・・』

「えっ・・・」

足の下にある奇妙な感覚に驚きながらも、ゆっくりと見てみる。
そこには・・・

「女、の子・・・？」

そう、茜の足元には見知らぬ少女が気を失って倒れていたのだ。

「う、ん・・・？ここは・・・」

「気が付いた？」

「え・・・」

茜は気を失っていた少女に警戒するも、こんな無防備に倒れている少女に危険な感じはしなかったので、とりあえず自分のベットに寝かせ目が覚めるのを待っていた。

そして、待つこと約1時間。

少女が目を覚めたのだ。

「あの・・・」

「あなたは誰？どうやってここに入ったの？」

険しい表情で少女を見る茜。

茜の住んでいる、この施設はセキュリティが半端じゃないほど
嚴重だ。

そんな施設に、どう見ても一般人であろうこの少女が忍びこめるとは思えなかったのだ。

「さあ、早く答えて」

「・・・い」

「何？聞こえないわ」

「わからないの！」

俯いて黙って茜の言葉を聞いていた少女が、いきなり勢いよく顔を上げ、そう叫んだ。

今にも溢れそうな涙を我慢しながら・・・

これが、茜と少女の運命の出会いであった。

2・始まり

「わからない・・・ってどういうこと？」
「・・・・・・・・」

それきり、少女は黙ってしまった。

茜は冷たくあたりすぎたか、と少しの後悔を胸に、今度は優しい
声音で目の前の少女に声をかける。

「黙ってちゃわからないでしょう？」
「・・・・・・・・」
「あなたのわかる範囲でいいの。話してくれる？」
「・・・・・・・・」

相変わらずの無言だが、少女は小さく頷いた。
それを確認した茜は安堵の笑みを浮かべ、ゆつくりと少女に声を
かけた。

「私の名前は垂水 茜、日本人よ。歳は19。あなたは？」
「・・・麻生 詩音、日本人・・・16歳・・・」
「住んでた場所は？」
「・・・千葉」
「ここにどうやって入ったの？」
「・・・わからない」

茜は小さく頷き、優しく微笑んで少女、詩音の頭を撫でた。
どうやら、敵国のスパイのような類ではなさそうだ。

他の者が見れば、たったあれだけの尋問でスパイではないと判断するのは早いと言っだろう。

しかし、茜の人を見る目は確かだ。

これのおかげで彼女は今まで生き残ってこれたといっても過言ではない。

「さて、詩音。単刀直入に聞くわね」

「・・・はい」

「ここは、あなたが住んでいた世界？」

「・・・違う、と思います」

詩音の答えを聞き、茜は、やっぱりと溜め息を吐いた。

「あの・・・？」

「いい、詩音。私の言うことをよく聞いて」

「はい」

「ここはね・・・」

《ダーン！！！！！！！！》

茜が説明しようとする、外で大きな爆音が上がり建物が大きく揺れた。

茜は咄嗟に詩音を抱き締め、彼女を守り揺れが収まったことを確認すると詩音を離して立ち上がり、ハンガーにかけてあった黒いコ

ートを羽織ると出口へと歩き出す。

「茜さん・・・！」

「いい、詩音。私が帰ってくるまでこの部屋にいなさい。絶対に外に出てはダメよ。死にたくはないでしょう？」

「え・・・」

「今の世の中は軍事国家。そしてここは軍事施設。軍人じゃないあなたが、この施設内にいればスパイだと思われるのも仕方のないことわかるわね？」

「・・・はい」

「なら、この部屋から出ないこと。わかった？」

「はい・・・あの、どうしてそこまで・・・」

「詳しい話は後。じゃ、部屋から出ないように」

それだけ言い残すと茜は部屋から出て行った。

部屋には不安気な表情をした詩音だけが残された。

《ダダン！！ガウーン！！！！》

「・・・っ！！」

銃声や爆音が鳴り響く。

詩音は、それを聞くまいと固く目を閉じ頭から毛布を被った。

茜が早く帰ってくることを切に願いながら。

3・西暦2115年

「・・・っ!!」

あれから、どのくらいの時間が経ったのだろう。

詩音は毛布を被ったまま、茜の帰りはまだかまだか、と待ち続けた。

《ピー》

「なに!?!」

いきなり鳴り響いた音に驚きながらも茜が出て行った扉を凝視する。そして次の瞬間、扉が開き中に誰か入って来た。それが茜だということがわかると、詩音は安堵の溜め息と共に全身の力を抜いた。

「驚かせたかな」

「いいえ・・・おかえりなさい」

「うん、ただいま」

詩音におかえりと言われたことに驚く茜だが、優しく微笑み頷いた。

それから、泥まみれの体をシャワーで綺麗に流し着替えると、詩音の待つ部屋へと向かう茜。

「（これから・・・忙しくなるな）」

心の中で呟きながら、部屋に入るとベッドの上で詩音が座っていた。

「茜さん・・・」

「遅くなってごめんね、詩音」

茜がそう言つと詩音は小さく首を左右に振つた。そんな詩音の前に茜は椅子を持ってきて腰かける。足を組んだ状態で、詩音をまっすぐに見つめた。

「さて、何から話せばよいのやら・・・」

「・・・」

「まずは、この世界について話そうか」

「はい・・・」

西暦2115年。

世界は《ブロック》と呼ばれる巨大兵器を巡って戦争をしていた。《ブロック》は日本海の奥深くで見つかり、日本が保護していた。しかし、巨大兵器を日本が持っていることを恐れた各国が日本に戦争を仕掛け、日本から《ブロック》を奪おうとしていた。

日本は、それを阻止し、今でも《ブロック》を守っているのである。

しかし、なぜ《ブロック》が日本海で見つかったのか、そもそも《ブロック》というのはどういった兵器なのか、全くわかっていない。

茜から、この世界のことを聞いた詩音は絶句した。

自分はとんでもない世界にきてしまった。

詩音の頭の中には、それしかなかった。

「巨大兵器と言っても、よくわからないの。一人が入れるくらいの楕円形のカプセルのような物だね。上層部が勝手に巨大兵器だつて言ってるだけなんだけど・・・」

「そう、ですか・・・」

「・・・で、次は詩音。あなたのことよ」

「はい」

覚悟していた詩音は小さく頷き、茜の次の言葉を待った。
この世界で詩音が生きていくには、茜に頼るしかないのだから・・・

4・選択肢

「麻生詩音、入れ」

「はい」

詩音はいま、軍医の面接を受けている。
生きていくために。

そして、元の世界に帰るための方法を探すために・・・

1週間前、茜が詩音に出した選択肢は3つだった。

1つ目はこの部屋でバレナイように暮らすこと

2つ目は施設を出て、1人で生きていくこと

3つ目は軍に所属すること

詩音は迷わず3つ目の選択肢を取った。

理由は・・・「私が、なぜこの世界に来てしまったのか、一番さぐりやすいから」だった。

茜は、初めは驚いていたが、最終的に詩音の手助けをしてみると言うてくれた。

しかし、詩音には兵士となって戦うことはできないので、軍医となるために1週間の試験対策期間を与えられたのだ。

詩音の両親は医者だったので、詩音も知らず知らずの内に医者になるべく勉強していたので、試験は難なくクリアし、後は面接のみとなったのだ。

そしていま、その面接を行っている。

「・・・つまり、日本のために働きたいということだな？」

「はい」

「ふむ。よし、下がっていいぞ。合否の結果は数日後に連絡する」
「はい」

面接を終えた詩音は、茜の住むアパートへと帰ってきた。

「ただいま」

「おかえり。面接はどうだった？」

「緊張しました」

「はは！そりゃ、そうだろうね」

「受かるかな・・・」

「さあ？」

「もう・・・」

「あはは」

数日後。

一通の茶封筒が届いた。

それは詩音の合否の結果が書いてあるものだった。

「詩音、合否の結果がきたよ」

「はい・・・」

「開けてみな」

「はい」

深呼吸を数回したあと、茶封筒を開ける。

結果は・・・

「茜さん・・・

合格しました」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6010c/>

夢幻

2010年10月28日05時13分発行